

地図で見る世界の子どもたちのようす

エイチ アイ ブイ HIV/エイズを知っていますか?

最大の危機が世界の子どもたちを直撃

2002年7月、スペインのバルセロナで「第14回国際エイズ会議」がひらかれました。これにあわせて、ユニセフやその他の国連機関は、あいついでHIV/エイズについての報告書を出しました。そこで伝えられた世界の現状は、10年前のどんな予測よりもひどいものでした。データによると、2001年末には、4,000万人の人びとがHIVに感染しており、HIV/エイズで親をなくした15歳未満の子どもは1,400万人にもものぼっています。

HIV/エイズってなあに?

エイズは、後天性免疫不全症候群という名前の病気です。HIV（ヒト免疫不全ウイルス）がエイズを引き起こします。

HIVウイルスの感染源となるのは、血液・精液・膣分泌液・母乳の4つの体液です。ただし、その体液に触れたからといって100パーセント感染するわけではなく、また、空気感染したり、日常的な接触で感染したりもしません。

HIVウイルスは、血液中の免疫システム（体を病気などから守る力）をこわしてしまいます。そのため、細菌や病原菌、カビなどによって、健康な人であればかからないような病気になってしまったり、悪性のガンができてしまったりする、命にかかわる病気です。HIVウイルスに感染しても、すぐにエイズになるわけではありません。発病するまでに、5～10年ぐらいかかります。でも、発病していなくても、HIVウイルスを持っていれば、上の4つの感染源を通じて、ほかの人にうつす可能性があります。

今のところ、エイズを完全に治療できる方法は見つかっていませんが、発病を遅らせることのできる薬は開発されています。しかし、開発途上国では、こうした薬は高価で、ほとんど手に入りません。また、栄養や衛生状態の悪さなどがかさなり、先進工業国の患者より発病するのが早く、また、発病してからも十分な治療やケアを受けられることが少なく、多くが耐えがたい苦痛の中で、早くに命を失っています。

10代の若者に広がる感染。正しい知識を身につけることが何よりも大切

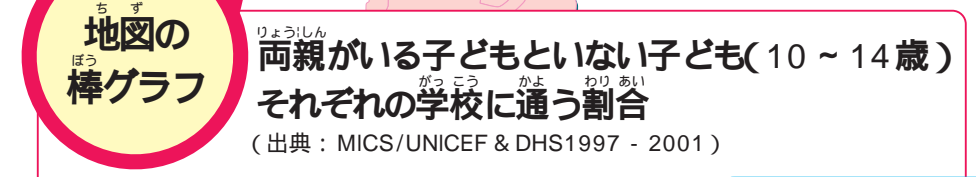
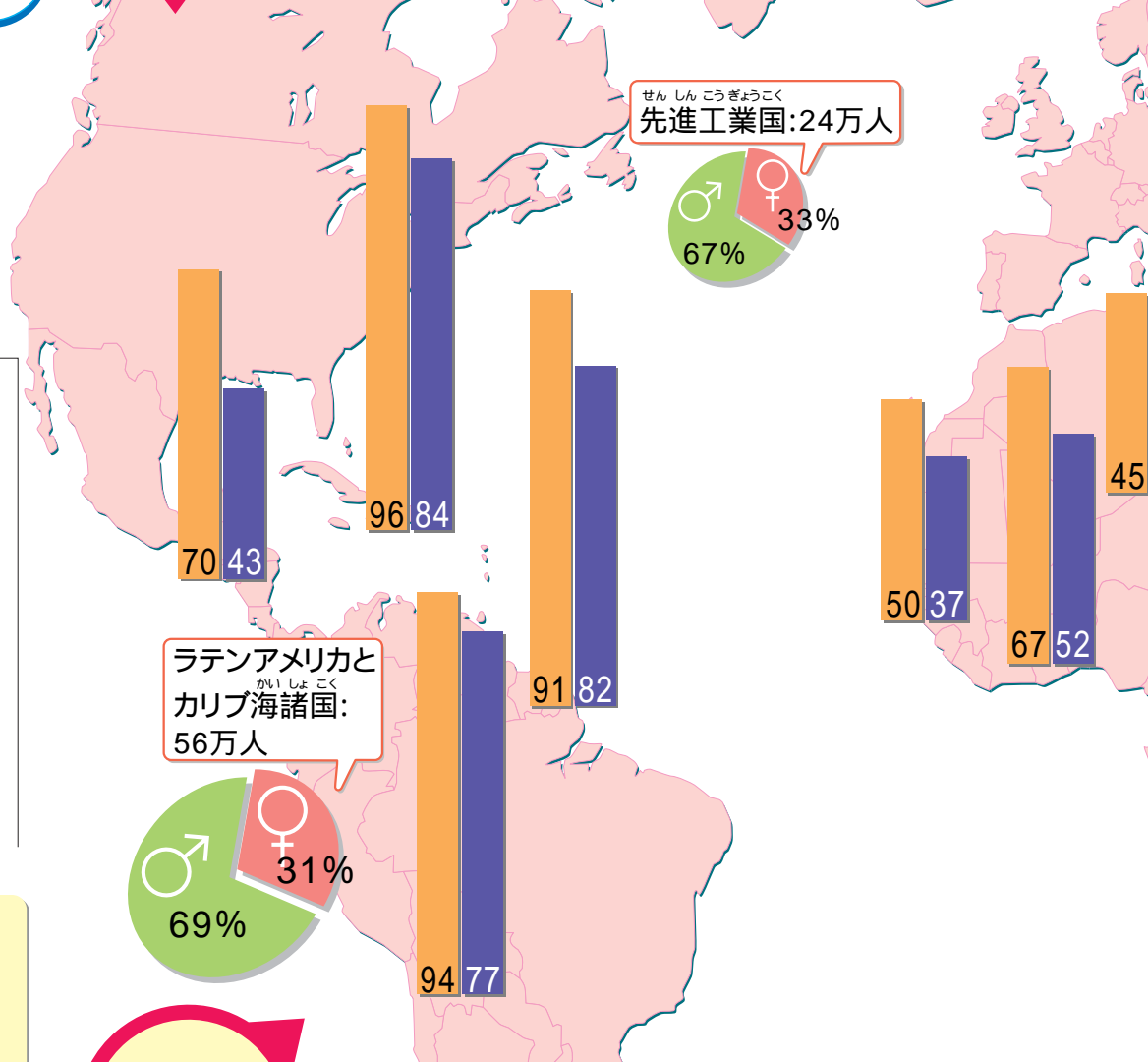
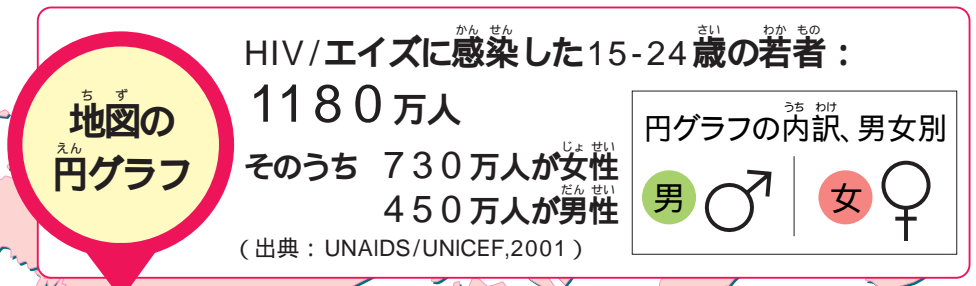
HIV/エイズがどのような病気で、どうしたらうつるのか、みなさんは知っていますか？ セックスなどが原因でうつることが多いこの病気について話すことは、多くの地域で敬遠され、タブーとなっています。また、この病気にかかった人に対する偏見もあります。そのため、子どもや若者がこの病気のことを知るチャンスが少なくなったり、まちがったことが信じられたりしています。

そこで、学校の授業の中でHIV/エイズのことを教えたり、若者たちが自身が病気を防ぐための活動に参加したり、といった動きが広がっています。



HIV/エイズの予防について、路上で寸劇を演じて人びとに伝えるポツワナの少女たち

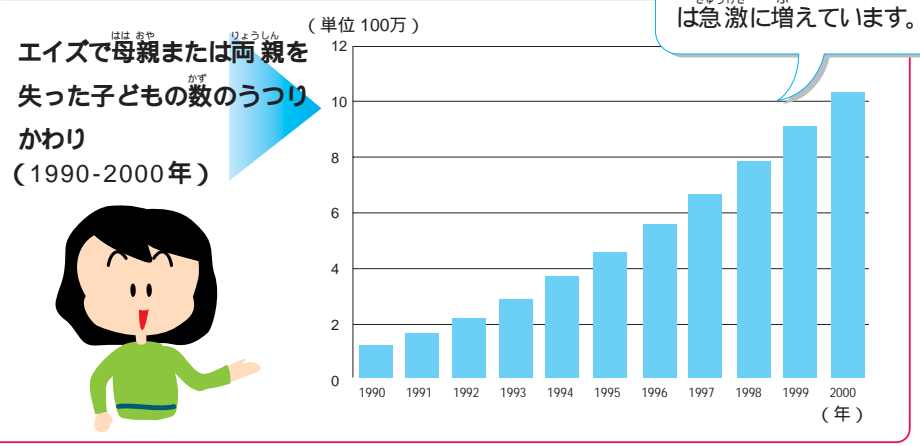
学校の授業で人形劇を作り、エイズについて勉強するタイの子どもたち

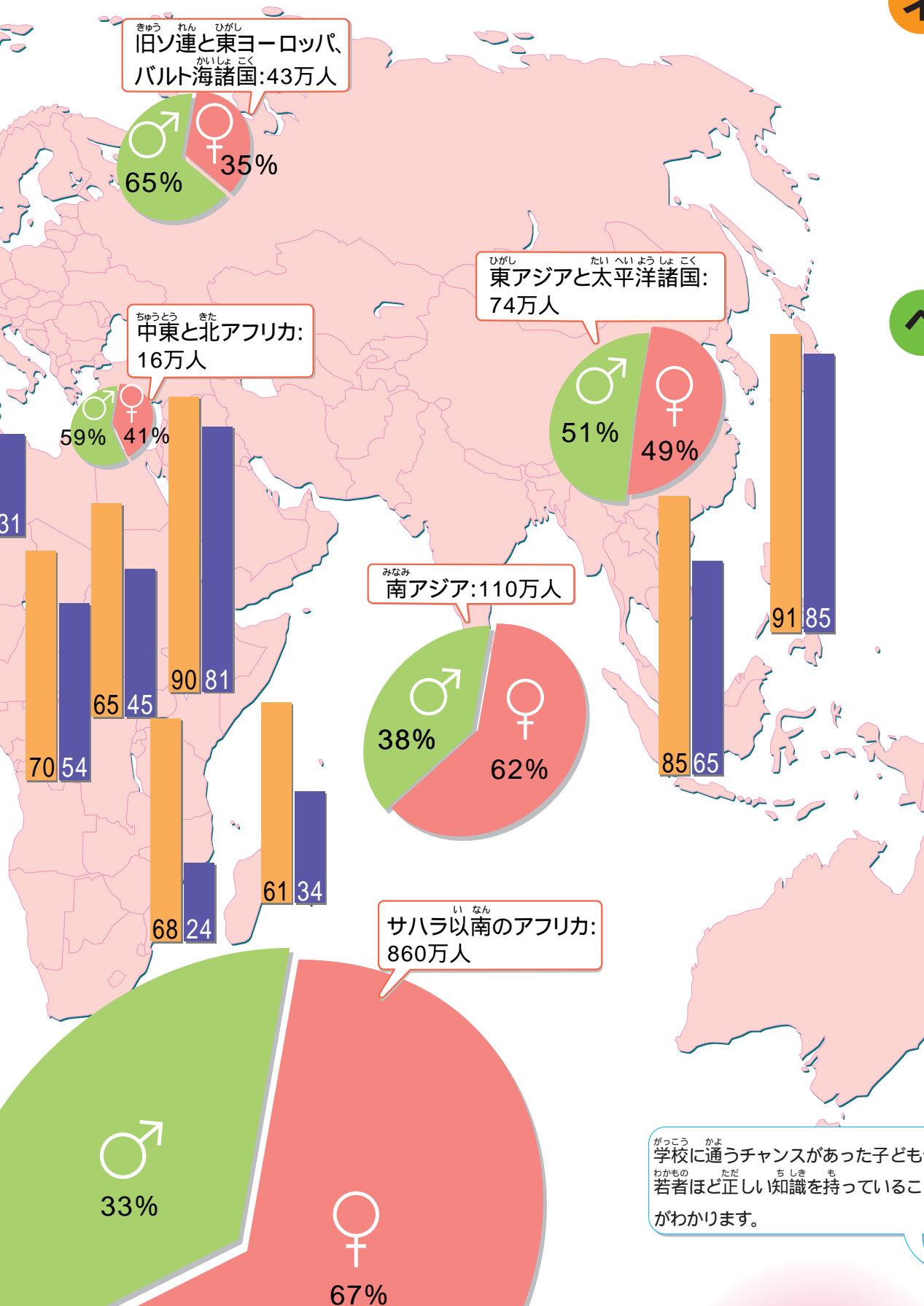


両親がいる、または片親といっしょに
くらしている子ども

両親を失った子ども

両親を失うと学校に通えなくなる子どもがふえているのがわかります。グラフでわかるように、エイズで親を失う子どもは急激に増えています。





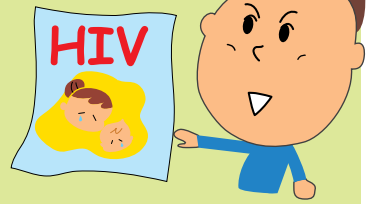
ネパールでは...

ネパールでは、若者たちによって“親友とおしゃべり”というラジオ番組が
つくられ、放送されています。この番組のテーマは、若者たちに共通の問題。
たとえば、ボーイフレンドやガールフレンドとどのようにつきあったらいいか、両親との関係など。HIV/エイズを防ぐことも伝えられています。毎週100～200通もの手紙が届く人気番組です。



ペルーでは...

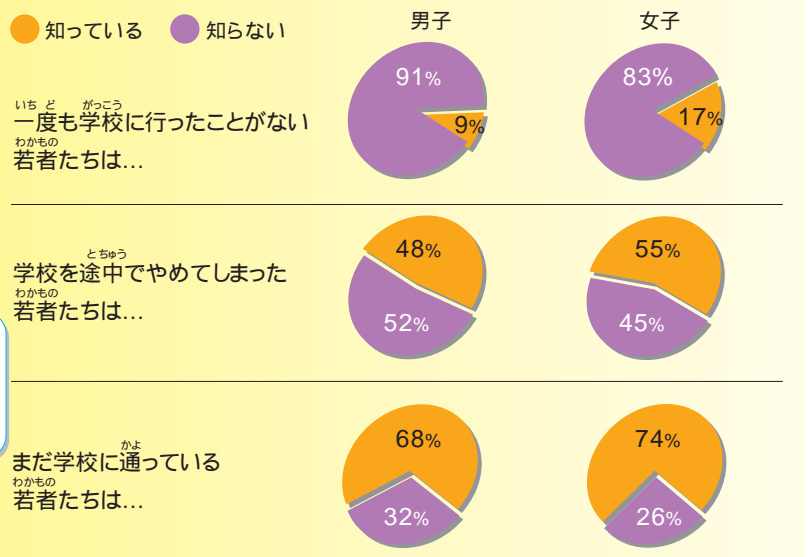
首都リマ市内の3つの地域では、健康な生活やHIV/エイズの予防についての研修を受けた10歳から24歳の240人の若者たちが、地域の子どもや若者に直接話をしたり、公共の場所にポスターをはったり、ラジオ番組で話したりして活動を続けています。これまでに、直接話をした若者は5000人以上、およそ45,000人以上の人が彼らのメッセージをうけとっています。



- 若者たちに伝えるエイズ予防のための3カ条
- 1 軽々しくセックスしない
 - 2 パートナーはひとりに
 - 3 いつもコンドームを正しく使う

教育によって身につく知識

健康そうに見える人でもHIVに感染していることがある、と知っている15～19歳の若者の割合(カメルーンでの調査、1998年)



学校に通うチャンスがあった子どもや若者ほど正しい知識を持っていることがわかります。

ストーリー STORY

エイズで両親を失ったきょうだいふたたび元気をとりもどすまで [エチオピア]

エチオピアの東、鉄道の町ディレダワで3人のきょうだい暮らしています。15歳の女の子マセレット、11歳の男の子ベスフェカッド、3歳の女の子テゼラシュ。製薬工場の守衛をしていたお父さんは、4年前エイズでなくなりました。お母さんもそれから2年後に、同じように息を引きとりました。3人は、頼る人も収入もなく、ただそこに残されました。

ディレダワで孤児のための教育センターを開いていたマスレシャが、ものごいをする3人のきょうだいを見つけたのは2年前でした。マスレシャは、かれらが近所の人たちに半強制的に町でものごいをさせられていることを知り、かれらの肉親をさがしました。そして、3人と半分血のつながった兄が郊外で妻とくらしていることをつきとめ、3人がそこで一緒にくらせるようにはからいました。

しかし、兄とくらして5カ月、3人のようすはさらに悪くなっていました。兄は安定した仕事がなく、お酒を飲み、しばしば暴力をふるいました。兄の妻は、3人

をこき使い、学校にも行かせませんでした。ベスフェカッドは家出し、ディレダワから55kmも離れたハラールの町でお茶売りをさせられているのを発見されました。

その上、兄がむりやりマセレットを結婚させようとしていることを知り、とうとうマスレシャは、かれらを自分の家で生活させることにしました。兄はかれらを連れもどそうとしましたが、3人は拒みしました。兄に誘拐されることを恐れて、マセレットは新しい学校が決まるまで、学校にも行けませんでした。

3人は幸運にも引きはなされることなく、マスレシャのもとで安定した生活を取りもどしつつあります。マセレットは美容師になるための勉強をしています。マスレシャは話します。「エイズで親を失い、学校もやめた子

どもたちはたくさんいます。孤児になった子どもは、差別や偏見にもさらされます。すべての子どもを助けたいと思いますが、限界があります。この3人は自分の子どもと一緒に、全力で育てていきます」

